

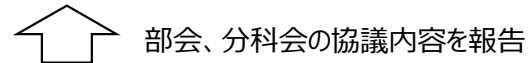


協力型バスレーン実証実験

沖縄県企画部交通戦略推進課
令和 8 年 6 月

沖縄県地域公共交通協議会

内容：地域公共交通計画の策定、事業実施、モニタリング、評価、変更
体制：学識、利用者、事業者、国、県、市町村等



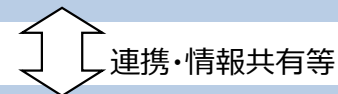
部会：沖縄県生活交通確保維持協議会

内容：赤字バス路線の運行費欠損補助
・地域間幹線系統確保維持計画の検討
・生活バス路線確保維持計画の検討
体制：関係市町村、事業者、国、県等

分科会：市町村連携交通会議（北部、中部、南部）

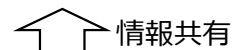
内容：各圏域の公共交通課題への対応
体制：関係市町村、事業者、県

WGの設置
(課題に応じたWG)



沖縄県公共交通活性化推進協議会

内容：国道58号を中心とした基幹バスシステムの導入
体制：学識、利用者、事業者、国、県、沿線市村等



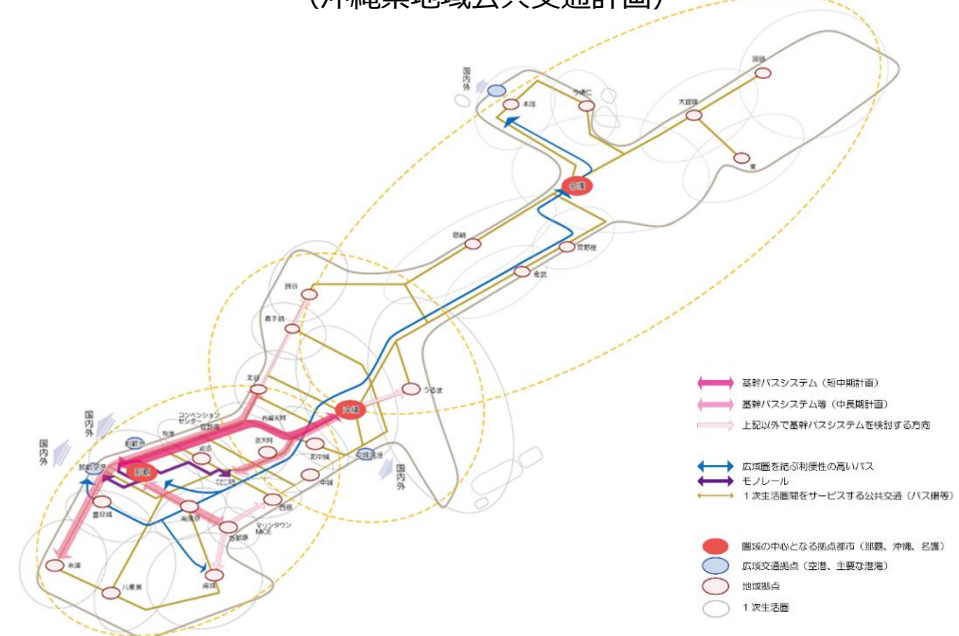
基幹バスシステム導入に向けた取組

- ・バス事業者との連携（勉強会）
- ・沿線5市村との連携（勉強会）

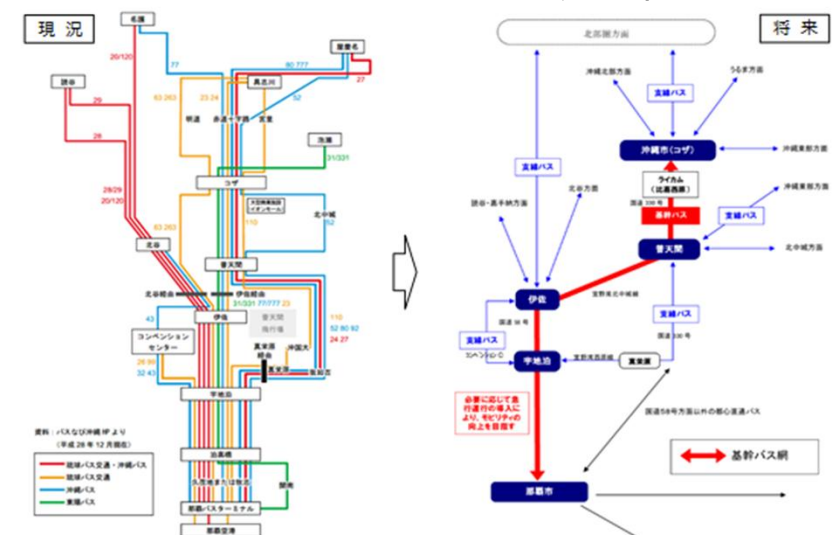
バスレーン延長に向けた取組

- ・西普天間交通対策WT
- ・バスレーン延長WT

都市活動を支え、都市構造を誘導する効率的な公共交通体系
(沖縄県地域公共交通計画)



国道58号を中心とした基幹バスシステムのイメージ
(地域公共交通総合連携計画)



2. 県地域公共交通協議会における各種ワーキングの設置について

沖縄県地域公共交通協議会

内容：地域公共交通計画の策定、事業実施、モニタリング、評価、変更
体制：学識、利用者、事業者、国、県、市町村等

部会：沖縄県生活交通確保維持協議会

内容：赤字バス路線の運行費欠損補助
・地域間幹線系統確保維持計画の検討
・生活バス路線確保維持計画の検討
体制：関係市町村、事業者、国、県等

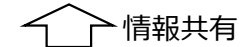
分科会：市町村連携交通会議（北部、中部、南部）

内容：各圏域の公共交通課題への対応
体制：関係市町村、事業者、県



沖縄県公共交通活性化推進協議会

内容：国道58号を中心とした基幹バスシステムの導入
体制：学識、利用者、事業者、国、県、沿線市村等

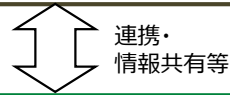
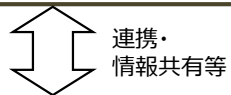


基幹バスシステム導入に向けた取組

- ・バス事業者との連携（勉強会）
- ・沿線5市村との連携（勉強会）

バスレーン延長に向けた取組

- ・西普天間交通対策WT



TDMワーキング

※地域公共交通協議会下部組織の位置付け

（目的）
TDM施策推進アクションプログラムの
施策推進とTDM施策の事例等の共有

県・市町村の役割（例）
・各学校における児童・生徒、教職員、保護者等へのMM施策の推進

バスレーン等検討WT

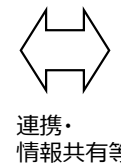
※地域公共交通協議会下部組織の位置付け

（目的）
バスレーン延長に向けた検討等
（既存バスレーンの変更に関する内容も含む）

県の役割
・バスレーン延長に向けた施策の検討
実施・関係者との合意形成等

道路・交通管理者の役割
・施策に対する意見・課題出し等

※必要に応じて関係市町村も参加。



バスレーン延長WT

※活性協下部組織の位置付け

（目的）
バスレーン延長に向けた検討

県の役割
・バスレーン延長に向けた施策の検討実施・関係者との合意形成

道路・交通管理者の役割
・施策に対する意見・課題出し

※令和8年度は5月、7月、10月、2月に開催を予定。（活性協のバスレーン延長WTとの同日開催も想定。）3

3. 協力型バスレーン実証実験について

現状の課題

<過度なクルマ依存>

沖縄県は、過度なマイカー依存により主に中南部において、交通渋滞が慢性化。道路混雑時の旅行速度は東京23区等の三大都市圏を下回る低い水準となっている。

<バス運行の定時性・速達性>

バス事業者の運転手不足が深刻化する中、運行の定時性と速達性を提供するため、バス輸送サービスの効率的な確保・転換が求められている。



解決へのアプローチ（協力型バスレーン）

<県民等に協力いただきたいこと>

自動車第1車線を走行中、路線バスが後ろからきたときは、できる範囲でお譲りいただく。



路線バスの定時性・速達性が向上する。



路線バスを利用していただく。



自動車が減少することで移動がスムーズに。



施策
協力型バスレーンの実施

バスを譲ることが、みんなの移動をスムーズにする。

実現したいこと

<持続可能な社会の実現>

公共交通の利用促進、渋滞緩和による移動の定時性確保、CO2排出量削減など持続可能な社会の実現

<超高齢化社会への対応>

公共交通の利便性向上により、高齢者が運転免許返納後も不自由なく暮らせる持続可能な移動手段の確保。

<交通安全の確保>

クルマから公共交通社会へのシフトによる、物理的な事故リスクが低減、安全な交通環境の実現。

4. 協力型バスレーン実証実験のねらい



公共交通の利用促進

クルマから人・公共交通中心の安心・安全な交通社会の実現に向け、胡屋地区交通結節点やバス網効率化（再編）の取組と併せ、公共交通の利用促進するためのバス走行性の確保（協力型バスレーン）は重要



協力型バスレーンの課題

- 協力型バスレーンは交通規制を伴うものではないため、自動車利用者を始めとした県民等の理解と協力が何よりも不可欠である。
- 事前のモニターアンケートでは、協力型バスレーンへの理解や協力度合は高かったものの、日常の実際の生活行動の中で協力型バスレーンへの理解や協力を得ていくためには、しっかりとした周知・広報を実施することに加え、実証実験を地道に継続的に取り組むことで、協力型バスレーンを県民等に定着させていくことが重要と考えられる。



実証実験のねらい

- 実証実験による早期効果を導くことも重要であるが、実証実験を継続的に実施することで協力型バスレーンへの理解と協力を高め、公共交通の利用促進やリソース不足対応にも寄与することをねらいとし、その先の持続的なバスレーン導入・拡充に繋げることとねらいとする。
- このため実証実験は、より長い区間・期間で実施を行い実装に繋げることが、待ったなしの喫緊の課題である公共交通の利用促進やバス輸送の効率化に資することと考えられる。

【参考】バス専用レーンと協力型バスレーンとの比較

	バス専用レーン	協力型バスレーン
法的拘束力	あり (違反時は道路交通法に基づく取締まり・反則金等)	なし (自発的な協力に基づく運用)
対象者と通行ルール	一般車両の通行禁止	一般車両の通行可能
通行可能車両	バス、タクシー、二輪車	全車両可能
実施時間帯	平日 朝7:30～9:00 (上りのみ) 夕17:30～19:00 (下りのみ)	平日 6:00～22:00 (上下両方向)
対象区間	①那覇市 (久茂地) ～宜野湾市 (伊佐) ※不連続区間あり	①那覇市 (久茂地) ～宜野湾市 (伊佐) ②宜野湾市 (伊佐) ～沖縄市 (胡屋) ③宜野湾市 (伊佐) ～北谷町 (桑江) ※既存バスレーン不連続区間は除く ※バスが片側1車線走行区間は除く
標識		なし ※歩道横断幕等にて周知を行う予定

5. 協力型バスレーン実証実験（素案）の概要について

協力型バスレーン実証実験の意義とねらい、沿線需要やサービス水準の状況等を踏まえ、協力型バスレーン実証実験（素案）の概要は以下の通り整理した。

実証実験計画（素案） ※協力型バスレーン実証は既存バスレーンに加えて実施

内 容

区間

那覇市（久茂地）～沖縄市（胡屋）
宜野湾市（伊佐）～北谷町（桑江）
 ※既存バスレーン不連続区間は除く
 ※バスが片側1車線走行区間は除く

方向・車線

上下両方向の第1車線（既存車線内で実施）

時間帯

平日の終日（6:00～22:00）
 ※既存バスレーン区間では、規制時間以外を対象
 ※既存バスレーンの運用は従来通り

実施期間

R8年11月～R9年3月中旬（予定）
 ※R9年度の実施も視野

その他

- ・路面標示は当面現状のまま
- ・協力・お願いの対象は、バス・二輪車・タクシー以外（既存バスレーン区間と同様）
- ・協力・お願いの対象車線は第1車線のみ（バス・二輪車・タクシーは第1車線以外の通行を妨げるものではない）

周知・広報計画

- ・広く県民等を対象（WEBサイト、ポスター・チラシ、TV・ラジオCM、オンライン広告、市町村広報誌等）
- ・主に自動車利用者を対象（歩道橋横断幕、企業団体への協力依頼、バスマスク、バスレーンサポーター等）
- ・観光客を対象（外国人、レンタカー利用者等）

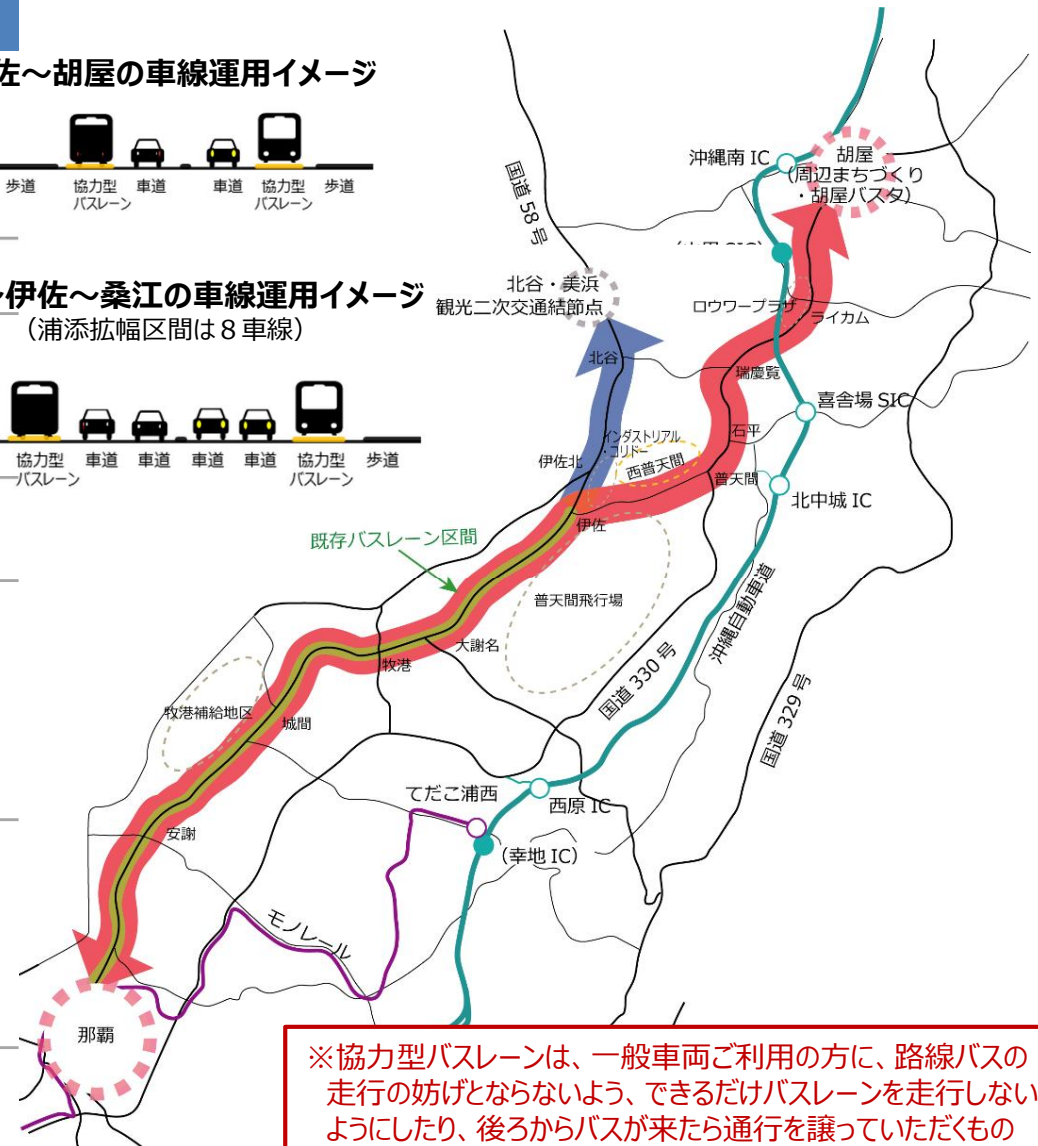
効果検証

- ・バスの走行性改善（旅行速度、定時性）
- ・道路交通への影響（交通量、旅行速度）
- ・バス利用者、自動車利用者、バス事業者（運転手）等の評価（アンケート等）等

伊佐～胡屋の車線運用イメージ



那覇～伊佐～桑江の車線運用イメージ
 （浦添拡幅区間は8車線）



※協力型バスレーンは、一般車両ご利用の方に、路線バスの走行の妨げとならないよう、できるだけバスレーンを走行しないようにしたり、後ろからバスが来たら通行を譲っていただくもの（規制を伴わない協力・お願いベース）

6. 協力型バスレーン実証実験の広報・周知について

実証実験に向けた広報・周知については、現時点で考えられる施策例をメニューアップした（今後の各種調整状況により実施施策は変動する場合がある他、設置箇所、数量は今後検討予定）。

なお、WEBサイト等では、**公共交通利用促進の重要性（持続可能な社会、超高齢化社会、交通安全確保等の観点）を併せて周知**し、協力型バスレーンへの理解と協力を求めていく。

＜広報・周知施策の例＞

＜イメージ（バスレーン延長時の例など）＞

広く県民等への
広報・周知

- ・ プレス対応（知事会見）
- ・ 特設WEBサイト（関係機関HPと連携）
- ・ ポスター・チラシ
- ・ TV・ラジオCM
- ・ サイネージ
- ・ オンライン広告
- ・ 新聞広告・折り込み
- ・ 市町村広報誌

主に自動車利用者
への広報・周知

- ・ 歩道橋横断幕
- ・ 企業団体への協力依頼
- ・ バスマスク、バス後部窓ステッカー
- ・ 給油所での周知、広報
- ・ 免許センター・警察署へのポスター等設置
- ・ 日本道路交通情報センター案内
- ・ バスレーンサポーター

主に観光客への
広報・周知

- ・ 空港インフォメーションへのポスター等設置
- ・ 那覇空港内バゲッジ内ビジョン
- ・ レンタカー車内ステッカー
- ・ レンタカー会社へのポスター・チラシ設置
- ・ ホテル客室チャンネル
- ・ 観光部局関連サイトとの連携



バスマスク



歩道橋横断幕



チラシ



新聞折込（「バス新聞」）



バンパーステッカー

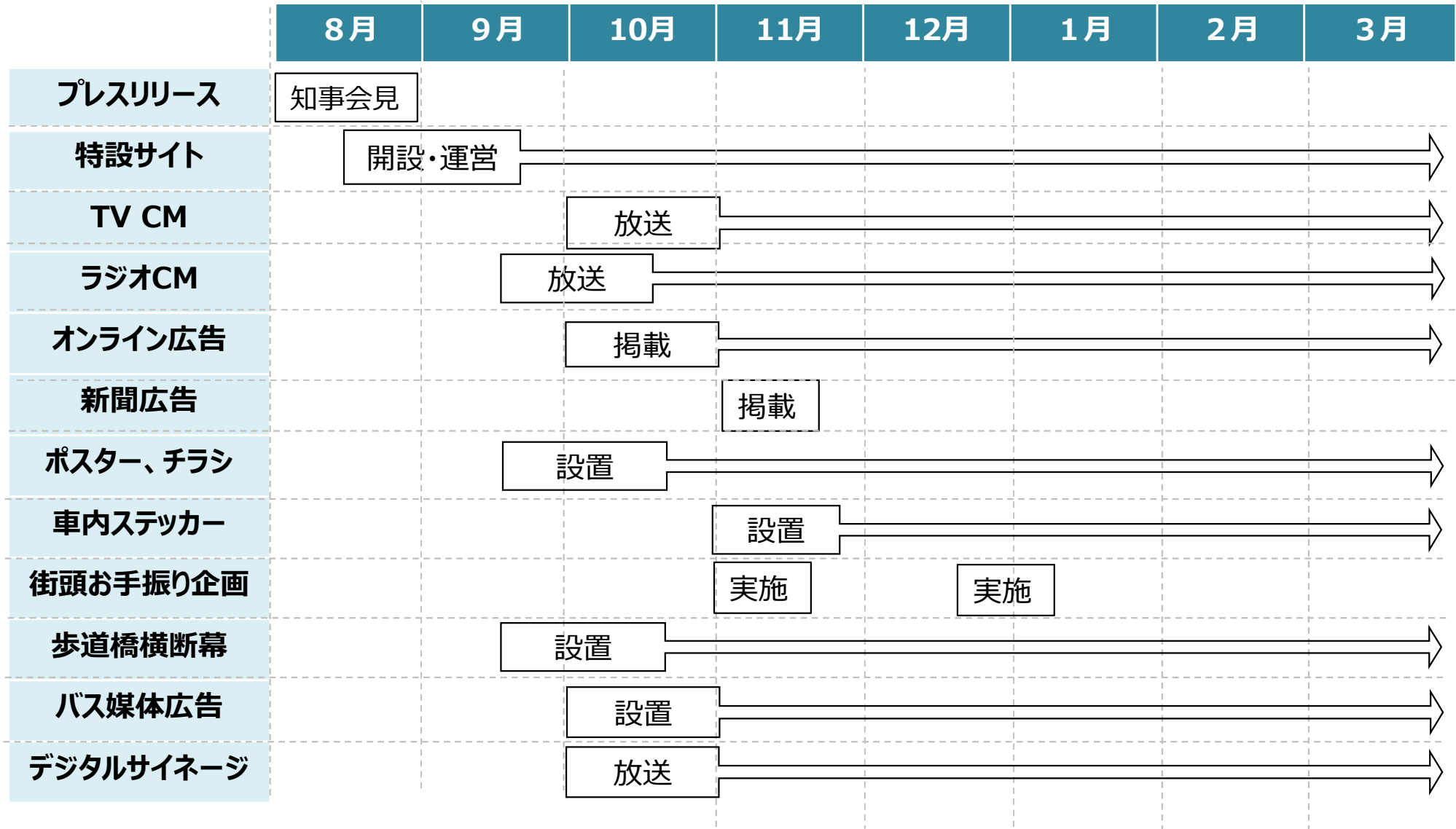


バスレーンサポーター



7. 協力型バスレーン実証実験に関する広報スケジュール

8月の知事会見（プレスリリース）を皮切りに、順次各種広報を展開し、県民及び観光客へ周知していく。



8. 協力型バスレーン実証実験に係る広報連携について

8月からの広報に向け、各市町村や経済界、観光業界等、連携協力の働きかけを行っている。

<連携団体リスト>

区分	団体名	周知協力媒体
実施主体	沖縄県交通戦略推進課	県広報媒体の活用（TV、ラジオ、広報誌等）、SDGsプラットフォーム
交通管理者	沖縄県警察	ポスター、チラシを本部及び各署へ設置
道路管理者	沖縄総合事務局開発建設部	歩道橋横断幕等の占用手続き、HP等（今後調整予定）
バス事業者	琉球バス交通、沖縄バス、 那覇バス、東陽バス	バスマスク、後部窓ステッカー等（今後調整予定）
関係自治体	市町村（本島）	ポスター、チラシを広報誌、HP、各種SNS、庁舎内掲示板へ掲載
経済団体	沖縄県商工連合会	ポスター、チラシの設置、HPへの掲載
	沖縄経済同友会	会員メールでの周知、定例会でのポスター配布
	沖縄県経営者協会	会員へのチラシ配布、月刊誌への掲載
観光業界	レンタカー協会	チラシ、ポスター、車用ステッカーを会員へ配布、情報誌へのQR掲載
	沖縄観光コンベンションビューロー	Web（おきなわ物語）、各SNSへの掲載
	観光案内所	チラシの配布、サイネージでの周知（調整中）

9. 協力型バスレーンのネーミングについて



- 自動車利用者に趣旨・意図をわかりやすく伝えるネーミング「ゆずり愛バスレーン」で周知を促進する予定。
- 「協力」を義務ではなく、「気持ちよい行動」として伝えることを重視した。
- バスに添えられたハートは、乗客一人ひとりの感謝の気持ちを表し、一台のバスの先には、多くの生活がつながっていることを視覚的に伝え、自動車利用者に負担を感じさせるのではなく、「譲ってよかった」と思える体験を想起させることを図る。



10. 協力型バスレーン実証実験に係る広報イメージについて

ポスター、チラシ、歩道橋横断幕等、様々な媒体を使用し広報を展開していく。**※デザインについては調整中**

ポスター・チラシ

- 対応言語
日本語
英語
韓国語
簡体語
繁体語
- ターゲット
県民、観光客



車内ステッカー



- 対応言語
日本語、英語
- ターゲット
レンタカー利用者（※主に観光客）

歩道橋横断幕



- 対応言語
日本語
- ターゲット
自動車利用者

街頭お手振り企画



- 対応言語
日本語
- ターゲット
自動車利用者

バス後部窓ステッカー

- 対応言語
日本語
英語
韓国語
簡体語
繁体語



- ターゲット
自動車利用者



デジタルサイネージ

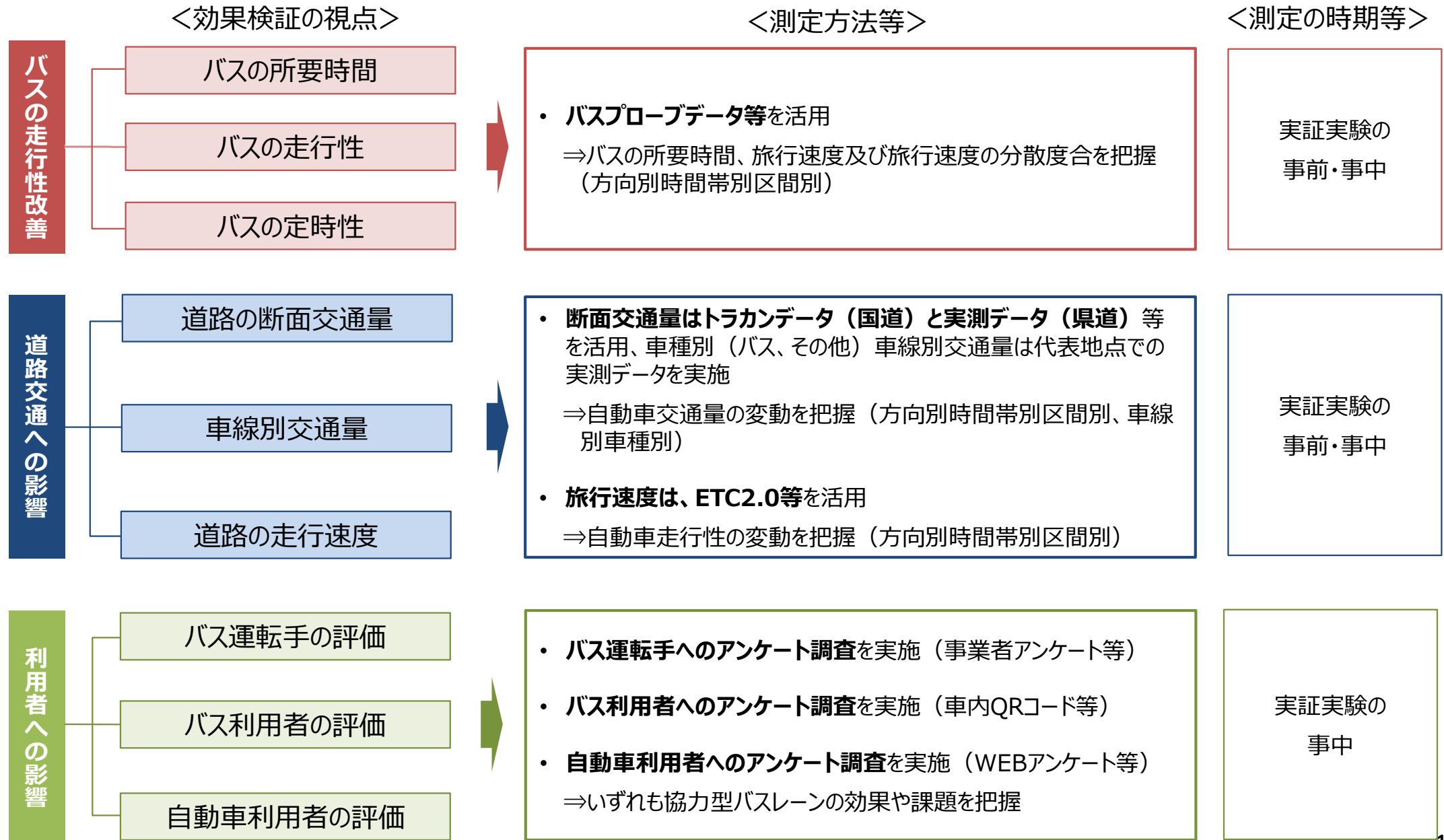
- 対応言語
日本語
英語
韓国語
簡体語
繁体語

- ターゲット
県民、観光客



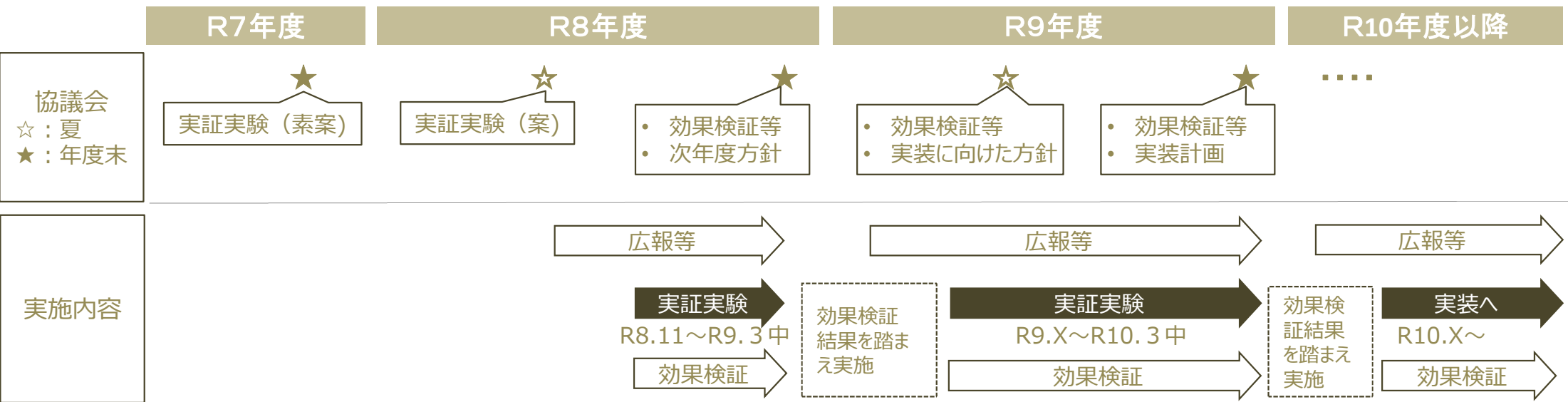
11. 協力型バスレーン実証実験の効果検証等について

実証実験に向けた効果検証については、R8年度はバスのモビリティと道路交通への影響を中心に効果検証を行う予定である（計測箇所、数量は今後検討予定）。



12. 協力型バスレーン実証実験に関する今後について

◆今後のスケジュール（例）について（実証実験を2か年実施し、その後実装する場合であり、今後の状況で変動する可能性がある）



◆路面標示について

- 協力型バスレーンを実装する場合に備え、周知効果等を高めるための**路面標示**について、道路管理者と意見交換していく予定である。

既存バスレーン（規制）の路面舗装



協力型バスレーン区画線イメージ（一例）

